

～天津むかしばなし その1～  
**天の湊 天津の地名について**



はつかさん

第 28 号  
発 行  
天津地域振興協議会  
総務企画部編集委員会  
印 刷  
米子ワークホーム

天津村の地名は明治二十二年、福成の戸長亀尾氏が福田正八幡宮の宮司相見氏に相談し、考えに考え、坂根にある春日神社の祭神天津児屋根の命の名前を頂くことで決まりました。

天津とは天の湊てんみなとという意味もあり天から神様が降りてこられた地域だったと想像します。今の天津田んぼは、縄文時代は海、周辺の山や丘陵からは縄文弥生の出土品や多数の古墳が出ていることから、狩猟や農耕に適した土地として人々が古くから天津周辺に住み着き、栄えたと思われまます。美しい大山山麗の広がりとお雲に隣接した地域であり、比婆山（母塚山）伝説や手間山、古事記神話が残り一千年以上昔の官の道古代山陰道が通っていたことが天の湊の証拠です。

昭和二十四年に町村合併が占領軍の勧告で進み、昭和三十年三月二十七日の廃村式で六十年間親しまれた天津村は西伯町の一地域の天津地区となりました。校区制から天津校区といわれ現在は天津地域、皆さんに天の湊といわれた天津の歴史をこれからシリーズで載せてまいります。



出雲宿称千家清足画 歳徳神図(とんどさん)より  
天津神、国津神の文字が読める

※「天津むかしばなし」は、平成元年から天津公民館の館報に福田正八幡宮の相見行佳宮司が掲載しておられたお話で、ご本人のご了承を得、私流に書き直した内容を載せます。

(記 野口 隆資)



あの人(こ)の人  
えんどう しんじ  
遠藤 新二さん(四季)

今日は、バンド活動をしておられる、四季の遠藤新二さんにお話を伺います。

まず、バンドの名前とメンバー構成を教えてください。

「異邦人バンドです。メンバーはボーカル・ギター・ベース・ドラムの四人構成です。私はボーカルをしています。ベースは南部町小原の田中一史さんです。その他は米子の人です。」



「米子のライブハウスを中心に活動しています。年に三回程度ライブをしていて、ごくたまにプロの前座をしています。最近では、THE SONS というロックバンドの前座をしました。」

「子どもから大人まで楽しめる様なライブイベントをしていきたいです。」

最後に天津の皆さんに一言。  
「イベントで見かけたら、声をかけてください。」

(記 田中 早栄)

どげしちゅー

おつか けんいち  
大塚 賢一さん(清水川)

子どもが中学を卒業すると地域との関わりが希薄になりがちです。そこで、あまつ住民の「最近どげしちゅーか紹介してこよう」という企画をしました。

初回は、清水川区長の大塚賢一さんの近況を紹介します。数年前一〇二歳でおばあさんが亡くなられ、一人暮らしになったお父さん(明夫さん)のことを案じ清水川へ帰郷されました。京都におられる子どもさん達はそれぞれ家庭を持ち一安心のはずですが、共働きの当たり前の時代、子育て支援に一翼担っている奥様とは離れて暮らす逆単身赴任という形を選んだそうです。

賢一さんの子どもの頃、清水川部落には同級生が8人(写真)。皆さんご健在で同窓会もされたとか。帰郷して毎日が楽しいそうで、地域振興協議会での活動、田んぼや畑仕事で日々輝いておられます。家では親子水入らずで、かつて仕事等ですれ違った時間を取り戻すかのように、何気ない日常



昭和 29 年清水川子供会 1 年生全員

の中で、親子の絆を改めて実感しておられるそうです。

台所の勝手口を開けたところに木臼がありました。これは毎年、年の瀬に家族一同で「餅つき」をしているそうで、賢一さんが物心つく前から行ってきた大塚家伝統行事だとか。もう半世紀以上続けてきた「餅つき」の話になると本当に楽しそうに目を細めて語って下さいました。

普段は離れて暮らしている家族ですが、この日ばかりはみんなで集まって賑やかで楽しい時間を過ごしているとか。遠く離れていても家族の絆は繋がっていますね。

(記 本田 節子)

## 特集：母塚山から望む大山の四季



撮影者：柄木 孝志 撮影日：2009.7.12

「昨年、大山のてっぺんから日が昇る『ダイヤモンド大山』の写真を撮影しようと母塚山に来てみたら、頂上からふるさと交流センターまで車が連なっているのを見て驚いた。地元はまだ寝静まっている夜明け前のことで気付く人もほとんどいないが私にとっては大きな事件だった。」

写真家 柄木孝志氏の写真集「瞬」matatokuによって母塚山からの眺めが評判になり、夜明け前、あるいは大山が夕日に染まるころ、大勢のカメラマンが訪れるようになってきました。

「母塚山からの眺望は、大山の稜線と眼下に広がる田園風景の組み合わせが見事で、全国にも誇れる撮影スポット。」「十年以上前、誰もいない母塚山に一人登っていた。当時はまだ整備されていない寂しい場所だった。そのころは木々の間からかろうじて覗く大山を苦勞して撮影していた。」

その後、母塚山は整備され、大山を眺める絶好の展望台となりました。皆さんもぜひ大山と地元の風景を眺めに登ってみてください。

(記 秦 博志)

### 編集後記

二十七年度、新しいメンバーで「はつかさん」を担当することとなりました。天津地区住民約二千人の皆さんに、これはといった話題やふるさと歴史再発見等、伝えてまいりたいと思います。

「館報あまつ」から始まり「はつかさん」と多くの方に紙面を飾って頂きました。まだまだ多くの人にインタビュース、「はつかさん」をより身近に感じていただき、私たちのふるさと天津地区をもっともっと知ってほしいです。

年四回の発行ですので、季節感がずれたりする場合もありますが、広報部員一同親しみやすく読みやすい紙面にするため頑張っておりますのでよろしく願います。

(記 大塚 賢一)



柄木 孝志  
(からき たかし)  
1969年生まれ 米子市在住  
写真家・大山王国理事・JAPRO 編集  
山陰 sacca 代表 ほか  
「瞬」matatoku (今井出版)